

SSIndex実施企業様向け セミナー開催

2022年10月号の
記事はこちら



サステナブル
スケール
インデックス
2022年9月14日「Sustainable Scale Index」(以下、SSIndex)実施企業様向けオンラインセミナーを開催しました。

昨年11月にSSIndexのサービス取扱が始まり、約10ヶ月が経ち、FFG各行にて約600社近くのお客様にご利用頂いております。日々の社会や企業を取り巻く環境は変化し、SDGs/ESGの重要性は高まっています。企業が持続可能な成長をしていくためには、既存事業を活かしたり、他社とのパートナーシップを通じて、新たなビジネスを興すことも求められています。本セミナーは、サステナビリティ経営の実践に向けた一歩を踏み出すヒントとなるべく、開催に至りました。

サステナブルスケール 社外取締役 古賀光雄氏
「地域産業育成につながる
SDGs取り組み」

企業の取り巻く環境の変化により、今のビジネスモデルでは生き残れない可能性があり

ます。例えば、デジタル化により、日本の労働人口の49%が従事している業務が将来自動化されるとの予測があり、持続可能な企業の成長のためには、人材育成や異業種参入がカギとなります。

人材育成面では、社員の幸福が企業成長の原動力と捉えています。革新的ビジネスモデルを創造するにはESGにおけるS(社会)、つまり「人的資本」の考え方が重要です。人への投資を行うことで、社員のエンゲージメントを高め、職場環境に変化をもたらす、結果、経営改革に繋がり企業の価値を高めることに繋がります。

異業種参入面では、SDGsの観点からの新規事業への取り組みが重要となります。例えばZ世代では、社会貢献を通じて満足感を得たいという意識があり、サステナブルやエンカル(社会的課題解決を考慮したり、該当する事業者を応援する消費活動)を生活の中に取り入れています。自社だけでは新規企業参入が困難なことも、異業種連携にて取り組みが可能となり、そして新規ビジネスの拡大に繋がる可能性が高まります。

現代企業を取り巻く環境の変化

- デジタル化の波が製造・サービス業の垣根を壊す。
ー労働人口の49%が人工知能やロボットで代替可能ー
- データが価値の源泉になる時代。(情報社会)
- 今のビジネスモデルでは生き残れない。
○異業種と繋ぐデータ連合が鍵 ○働きがいのある企業が生き残る
- 新型コロナにより生活スタイルは激変する。
ーこれまでの社会システムを見直して、より良いものに再構築する機会が生まれたー
- 日本の雇用はこんなところが大きく変わる。
ー職務・時間・場所・長期雇用・ジョブ型・パーシッパ型・ギグワーカーー
- メタバース 28年に100兆円市場

koga management institute

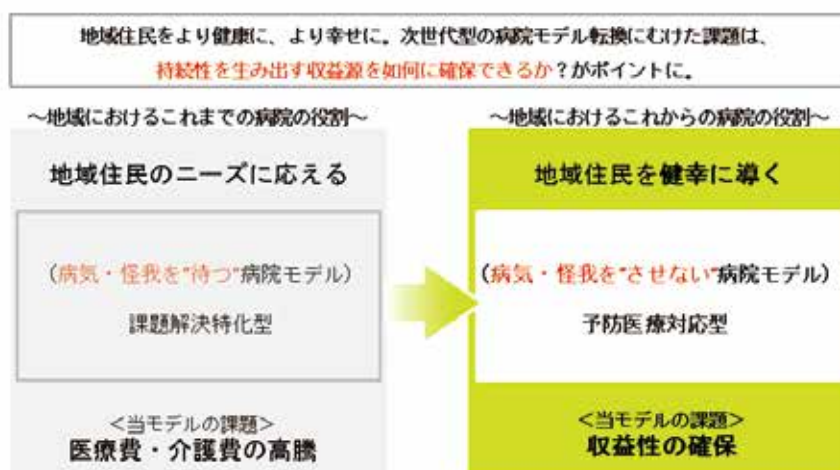
経営におけるキーワードとして、改めて自社の存在意義、パーパス(＝社会での存在意義)を問い、社員全体で考えていくことが重要となります。

サステナブルスケール シニアアドバイザー 木許心源氏
SDGs視点で収益力のある事業へ
社会課題解決型事業による
成長戦略と持続可能性

社会課題を解決できるのは政府や行政、NGOだけではありません。むしろリソースが不足しているため、その影響は小さく、企業によるビジネスこそが社会課題を解決する近道です。社会課題とは言い換えれば社会のニーズでもあります。また、収益によってこの課題解決を持続できるのですから、社会課題を解決するビジネスは、むしろこの収益性を深く考えなくてはなりません。

別の言い方をしてみれば、利益が上がるのは、社会問題を解決するときであり、医療現場で例えると、AIなどのテクノロジーにより確認作業の見落としや申し送りのミスを

社会課題解決型ビジネス実例 地域における持続的な医療提供体制にむけて



防ぐことで医療事故が削減されます。また、安全な作業環境を整備することで事故を防ぐことができます。事故などによる費用は経営を圧迫させ、コスト負担を増大させることから、事故防止そのものでビジネスの収益性が改善されるのです。

社会的価値と経済的価値を同時に創造し、それらを適用していかなければなりません。自分たちのビジネス領域、もしくはビジネスそのものの社会問題を分析し、それらに役立つ適切な価値の提供を定義することが近道です。

さらにそれらによる持続可能性は環境、労働者、健康資本など多くの問題を解決し、社会の持続可能性も担保されていくのです。

FFGでは、SSI Index 利用後のSDGS導入支援体制として、まずはお客様と対話を重ね、今後取り組むべきサステナビリティの優先課題を特定・対応策を支援致します。

今後もFFGは、お客様のサステナビリティへの取り組みを支援すべく、様々なサービスを展開してまいります。

講師プロフィール



古賀 光雄 氏 (サステナブルスケール 社外取締役)

公認会計士

古賀マネージメント総研株式会社 代表取締役

福岡県出身。1969年福岡大学卒業後、アーンスト・アンド・ウィニー会計事務所を経て現監査法人トーマツに入所。1995年代表社員就任と同時にトーマツコンサルティング株式会社代表取締役就任、その後、1997年にトーマツ・ベンチャーサポート株式会社を設立し代表取締役に就任。2012年に古賀マネージメント総研株式会社を設立、2021年より株式会社サステナブルスケール社外取締役を兼務。



木許 心源 氏 (サステナブルスケール シニアアドバイザー)

医学博士・神学博士

古賀マネージメント総研株式会社 取締役副社長

株式会社健康資本 代表取締役社長

トロント大学医科大学院小児難病情報センター 研究員

トロント大学卒業後、米国ブルームバーグ社での情報分析官を経て、国内銀行グループのシンクタンクへ転職、2009年からはカナダ・トロントのビジネスカレッジ校長を務めた。2019年より医療系ベンチャー企業5社を傘下に置く株式会社木許森メディカルホールディングス代表取締役社長、2021年より株式会社健康資本代表取締役社長、株式会社サステナブルスケールのシニアアドバイザーを兼務。